

3 0 ボランティア活動に関する調査研究

研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター センター長）

①研究の趣旨，ねらい

地域の体験活動ボランティア活動の指導者等として活躍が期待されている団塊の世代を対象に、ボランティア活動に対する意識調査を実施し、今後のボランティア活動推進施策に資することを目的とする。

②研究成果の概要

地域において、ボランティア活動の指導者・コーディネーター等として活躍が期待されている団塊の世代を対象に、ボランティア活動に対する意識調査をインターネット調査により実施した。その結果の概要は次のとおりである。

- 今回調査した団塊世代の 35%がボランティア活動を「現在行っている」と回答した。
- 現在行っているボランティア活動の分野は、『町内会や自治会などの手伝いなど』（19.1%）、『地域のゴミ拾い等の環境美化など』（17.4%）が高い割合となっている。
- ボランティア活動の各分野について、ひとつでも「現在している」、「現在はしていないが、以前したことがある」と回答した人に、ボランティア活動のきっかけを聞いてみると、『地域（町内会や自治会等）からの呼びかけなどに応じて』（70.9%）、『自分の自発的な意思で』（59.1%）が高い割合となった。次いで、『所属する団体や組織等の活動として』（39.8%）となっている。
- 「現在行っている」と回答した人のボランティア活動の満足度は、『満足している』が 20%、『やや満足している』が 52%であり、満足している人の割合が高い結果となった。
- ボランティア活動の各分野について、ひとつでも「現在している」と回答した人のボランティア活動の意識について聞いてみると、『地域のために役立っている』、『ものの見方、考え方が広がる』、『思いやりの心が深まっている』、『友人や知人を得ることができる』で「とても思う」「思う」と回答した人が多く、ボランティア活動の意識は肯定的な傾向にある。
- 今後のボランティア活動の意向について聞いてみると、『地域のゴミ拾い』等の環境問題が 56.5%と最も多く、次いで『町内会や自治会などの手伝い』（54.9%）、『地域の伝統芸能・伝統行事』（34.7%）等の地域活動への参画、『お年寄りや障害のある人に対する介護』（30.2%）等の介護福祉の順

となっている。

- 調査結果を踏まえ、「団塊の世代」の社会参加を促進するための方策として「団塊の世代」が働く場を積極的に提供すること」「ひとづくり・まちづくり・ものづくり」には働きがいの再評価、我が国の歴史的な遺産の継承が必要である」「まわりから認められるという意識を醸成していく必要がある」の3点を提言している。

③中期目標との関連性

- 中期目標〔目標4〕社会教育分野での実践的な調査研究に関連するものである。特に、社会教育においても課題となっている「団塊の世代」を対象にした社会教育事業の開発という視点から（1）社会教育の現場における課題の把握とその解決に関する調査研究の実施に関連する調査研究である。
- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標2】社会教育事業を充実発展させるための新たな手法の開発や社会教育事業の検証・評価に関する調査研究を推進することに合致するものであり、特に団塊の世代の地域における社会教育活動への参加促進を図る方策を見出すことにつながるものである。

④今後の研究予定

- 平成19年度に「団塊の世代」の参加促進の観点も含め「学校支援ボランティア活動に関する調査研究」を行い、その結果を調査研究報告書としてまとめる。

⑤キーワード

- （1）団塊の世代 （2）ボランティア活動 （3）ボランティア活動意識
- （4）学校支援ボランティア （5）NPO活動
- （6）団塊の世代の社会参加

⑥本研究の研究報告書

- ボランティア活動に関する調査研究報告書

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- 「青少年の体験活動ボランティア活動のコーディネーター養成研修プログラムの開発」：社会教育実践研究センター 平成15年度
- 「学校における体験活動ボランティア活動のコーディネーター研修プログラムの開発に関する調査研究」
：社会教育実践研究センター 平成16年度～平成17年度